

研究部2022年の活動

研究部では、次のような活動を予定しています。コロナ禍の終息がまだ見えませんので、無理のない範囲でご協力をお願いいたします。

1. 繁殖期・越冬期の定点での調査

- (1) 繁殖期に、定点場所での繁殖状況を調べる活動
- (2) 越冬期に、定点場所での越冬状況を調べる活動
- (3) いずれも、新規に近い計画ですので、時期が近づきましたら、このページを中心に呼びかけをします。ぜひご参加ください。



冬羽のカムリカイツブリ

2. 猛禽類の生息・繁殖調査

昨年に引き続き、タカ類・ハヤブサ類・フクロウ類の生息状況および繁殖活動について、その実態を追っていきたいと思います。

3. 月例探鳥会地の『鳥類目録』作成

『新・東京都産鳥類目録』作成の一環として、まず10か所の月例探鳥地での『鳥類目録』の作成を予定しています。探鳥会の時以外で観察されたデータも収録しますので、過去の記録をご提供ください。

4. ミヤコドリの観察調査、鳥信・ホームページなどの充実を進めます

ホームページ <http://www.yacho-tokyo.org/birdstudy>の活用を進めています。

足環のついたミヤコドリ「T6」のその後

カムチャツカ半島で生まれ、脚にナンバー「T6」と記された足環をつけたミヤコドリ(以後「T6」と表記)が、東京湾の三番瀬(千葉県船橋市)で2019年9月25日に発見されたことは、一昨年の3月号[No.773]の当ページで報じましたが、その後の「T6」のようすが少しわかりましたので紹介します。

三番瀬で「T6」が観察された2日後の9月27日に、同じカムチャツカで足環を装着された「T7」が伊勢湾の安濃川河口(三重県津市)で発見されました。どちらもその年は越冬し、「T6」はそのまま越夏もし、2020年11月5日までは東京湾で観察されていましたが、12月25日に、伊勢湾で野鳥を観察している方から、「「T6」が安濃川河口に来ている」との情報が寄せられました。その後「T6」が東京湾に戻ってきているのは田久保晴孝さんが確認しています。しかし、2021年1月25日を最後に“消息不明”。越夏した40羽の中には、10月25日に調査した時も、約400羽の群れの中に「足環付」の個体は見つけれなかったとのことでした。

そんな中、伊勢湾の同じ方から、「「T6」は伊勢湾にいた」との情報が昨秋寄せられました。フラッグ(足環)個体の観察情報が集まる山階鳥類研究所に問い合わせたところ、「T6」は2021年2月～5月まで伊勢湾で複数の観察者により確認されていて、5月に釣り糸で負傷をしたとの報告が最後とのことでした。詳細はわかりませんが、無事に再発見されることを祈っているところです。ちなみに「T7」の方は、伊勢湾で越冬中のようです。

この冬、三番瀬や葛西海浜公園などでミヤコドリを見かけたら、ぜひ脚にご注目ください。